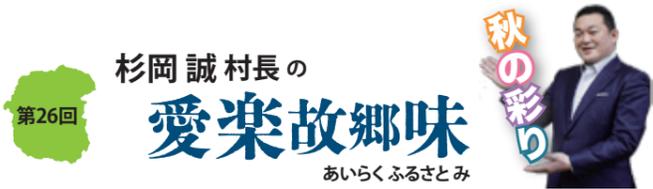


若い活力と長年の実力  
伝統と未来が邂逅する村



第26回  
今年も実りの秋の到来です。生産量を増やし続けている「あぶくまもち」の収穫、「いたてホップ」のビールの完成も待ち遠しい限りです。9月1日の「福島県芸術祭」から始まりました。村からは比曽地区の「子ども三匹獅子」が披露されました。子ども達の可愛い未来を感じる演舞に会場の皆様も魅了されておりました。7日の「いたてホーム夏祭り」では青空の下、皆様の笑顔を見つけて、晴れやかな心持ちにさせていただきました。8日はコロナ禍が明け、2回目の「敬老会」。今年も多くの皆様に参加していただき感謝申し上げます。飯館村の敬老会はふるさとの真心を届けられる、温かい会となるよう努めております。ふるさとの花、敬老祝い品も含め、村産にこだわったものです。お楽しみいただけましたら、これ以上の喜びはありません。15日は「いたてつ子秋まつり」、16日は「村民スポーツ大会パークゴルフの部」「希望の里 WAKUWAKU E ツアー 報告会」「市町村対抗軟式野球大会」、21日は「ズットフィルム」、23日は「いたてロックフェスティバル」、28日は生産者の会の「まじなマルシェ」など盛り沢山。若い活力と長年の実力、伝統と未来が邂逅する飯館村の初秋となりました。昨年引き続き、仙台の「オクトーバーフェスト」に参加し、飯館村の魅力を外に広く発信し、村産食材を使用した特別メニューを提供して好評賜りました。参加された皆様の笑顔が忘れられません。魅力の磨き出しと発信に、より一層努めてまいります。そして、27日の飯館村表彰式。村の発展と福祉の向上のため、長年にわたり献身的な活動を続けられ、指導的役割を果たしてこられた方々のご功労に深く感銘を受け、伏して感謝を申し上げます。先輩方皆様のお知恵とご見識は村の貴重な財産です。飯館村は温故知新の中にも、化学反応を起こしている唯一無二の自治体です。この村は真っ白なキャンパスであり、そこに彩りを加えるのは他の誰でもない、村民の皆様お一人おひとりです。お一人おひとりの意欲を何よりも大切にしております。実りの秋をワクワクしながら、楽しんでまいりましょう。

ひとのうごき

おくやみ

氏名	年齢	行政区
鳴原 誠一さん	80	長泥
高橋 一さん	73	伊丹沢
菅野 要治さん	91	前田・八和木
原田 重吉さん	91	深谷

ご冥福をお祈り申し上げます



(8月21日から9月20日までに届け出のあったものを掲載)  
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。



ひとのうごき 令和6年9月1日現在

人口	今月(前月比)	8月1日~31日までの人口動態
●男	2,311人(-4)	転入 5人
●女	2,260人(-2)	転出 7人
計	4,571人(-6)	出生 1人
世帯数	1,798戸(-2)	死亡 5人
		(住民基本台帳人口)

飯館村語学研修事業 希望の里 WAKUWAKU E ツアー  
報告会で旅の成果を発表しました

9月16日、交流センター「ふれ愛館」で、飯館村語学研修事業『希望の里 WAKUWAKU E ツアー』の報告会が開催され、ツアーに参加した16人の生徒が、関係者や保護者を前に旅の成果を発表しました。

生徒は班ごとに壇上に上がり、スライドを使って、ホームステイの思い出や学校交流のこと、発見したオーストラリアと日本の違いなど、さまざまなテーマについて、一人ひとりが発表しました。

発表後の講評では、杉岡村長が「それぞれにとってもよい経験ができたことが伝わってきました。自分で気づいたことをきっかけに、これからも国際感覚を磨いてほしい」と、いたて希望の里学園の亀田邦弘校長が「多くの人のご協力でこれだけ貴重な体験ができました。ぜひ今後の人生に生かしてほしい」と述べ、旅で得た成果を讃え、エールを送りました。



希望の里 WAKUWAKU E ツアー

詳しくは9月号を見てね

いたて希望の里学園後期課程の生徒を対象とした語学研修ツアー。8月1日から6泊8日の日程で実施され、参加を希望した生徒16人がオーストラリアを訪れました。現地の中学校で特別授業を受けながら同世代と交流し、ホームステイも体験。農場やビーチ、歴史的スポットなどを訪れ、暮らしや文化にも触れました。

村民広報委員 富士男の

ちょっと寄り道 ⑥

春夏秋冬



すが 清しい秋です。先日、村の敬老会に出席させていただきました。久しぶりに逢う人達はまるで元気そのものようでした。「少し痩せたかな?」「少し腰が曲がったかな?」それでも屈託のない笑顔で思い出話をしてくれました。

14年間の避難生活があったせいか、仲間達に逢ってお互いに元気な姿を確かめ合ったようで、とても話がはずんだようです。

避難先からたまに飯館に帰って来て、隣の人達や友人達と話す言葉は、やっぱり方言まじりで、畑の“なっぱ”の話や、毎年の稲のでき具合の話ばかりのようです。「おへらったから(太陽が沈むから)もう帰ろうか?」そんな言葉も聞こえてきそうです。気軽に話せる事に心が晴れるとも話してくれました。そしてふる里、飯館村の春夏秋冬を思い出すとも言います。

春には 若葉と農作業の風景の事

夏には さわやかな空と子ども達の声

秋には きのこと取りと作物の収穫

冬には 寒さの中の雪のぬくもり

なつかしく楽しかった日々の会話です。これからもそれぞれに少しでもいい、一人でもいい、ふる里のあの風景や、村人の優しさや、にぎわいを取り戻していけるよう、努力していきたいと想います。

